

タカラモノ ニュース



ふくしま復興のために活動するひと・1

福島之歌うたい **ave**
Acoustic Variety Entertainment





♪ いつか君がこの町で暮らしたいと

言ってくれたら幸せだろう

君の故郷ふるさとになれるよう

まずは僕が動きだそう…

この歌詞は、震災のあとラジオで毎日いつばいかかった「福の歌」という曲の出だしです。福島の人はいいたいみんな知ってると思います。今日は、この曲を作った人が来て「ライブ」をします。ボクたちが元気を出して頑張れるように、「学期で転校して行く友達、福島の思い出になるように」って、PTAの会長さんが思いついてくれたみたい。ライブ見るの初めてだからなんだかドキドキ。

「みなさんこんにちはー！」
「こんにちはー!!!」

黒いシャツとジーンズの、少し髪の長いお兄さんが体育館のステージに現れて、ニコニコしながらあいさつしてくれました。

ドキッ！

「え？してないの？みなさん、恋しましうよ！」

さわさわガヤガヤ

「はいそれでね、次の歌は恋色の町という歌で…」

ガヤガヤさわさわ

「ハイ、いまaveおじさんしゃべつてまーす！」

あはは！ おじさんだって（笑）でも、恋しましうなんて言われたら、おとなしくなんてしてられないよ。え？ ボク？ 好きな人は…いるけどゼツタイ教えない。「恋色の町」は自分の生まれたところを離れて、好きな人がいる福島にやつて来た女の子の歌。最初のと違って、ゆっくりしてて優しい声の曲だったからボクはこつちも好きだなあ。

「みんな、福島のどんなところが好きー？」

ガヤガヤガヤガヤ

「…はいありがとう。みんな一斉にしゃべるから何も聞こえなかった。えっと、じゃあ手上げた人に聞こうかな。まずは低学年の子からどうぞ」

「だっぺーとかいうところ！」

「だっぺー？ああ方言ね。んだべ！とかね。はいじゃあ次の子」

「福島のカタチ！」

「カタチ？新しいねその角度は。」



「えー、僕の名前はave（エイブ）って言います。みんなで呼んでもらっていいですか？せーの！」

ライブが始まるドキドキと明日から始まる夏休みのワクワクで「今の録音しなかった！」ってaveさんがびびくりするくらい、でっかくみんなで叫んだよ。

aveさんは福島市で活動してる「歌うたい」なんだって。ついでに言う、僕が通ってる小学校は一年生から六年生まで六〇〇人くらいの、福島競馬場のすぐ近くにある福島第三小学校です。

「では、みんなの前で僕が作った曲を歌いたいと思います。みんな聞いてくれますか？」

「はい!!!」

うわーいよいよ始まるぞー！と思つたら、ちよつとだけびびくりすることが起きたんだ。

「…すいません、僕ギター忘れましたよね」

えー!? うそー!!! aveさんが暗がりにギターを取りに行つてるあいだ、みんなわーわー言つてたんだけど、「はい、ザワザワしない！」って戻つてきて「一回やってみたかった！」って言つてたから、わざとかな？

はいじゃあ、その女の子」

「わかんない！」

「かんないのに手上げたのかー。でも上げるってことが大事だよね」

なんだか先生やお母さんたちゲラゲラ笑つてたよ。ボクたちこんなに真剣なのにもう。でもやっぱりみんな「自然がいっぱいあるところ」がいいって。だからaveさんが「星がキレイだなーって思う人！」って言った時も、みんな手を上げてたし。

『福島のことをたくさん歌ってるけど福島が好きなんですか？』ってライブの前にaveさんに聞いてみたよ。「好きなところもあるけど嫌いなところもありますね。普通のご当地ソングって良いことしか書かないじゃないですか。でも自分はどうしても毒を入れたくなるっていうか、悪口も書く。僕は福島人だから、福島に対してだけは好きも嫌いもはっきり言えるんです。例えばね、『郊外店にはかり人が集まるから街なかに人がいない』ってブツブツ文句言つんだつたら、商店街にしか出せない魅力づくりをすればいいのに…って思つたりとか。こういうこと言うと、商店街の人たちから怒られちゃうんですけどね」

♪ 音楽都市と謳うたうと

歌も流れてなければ

嗚呼、人も流れてない

ボクは本当に忘れたんじゃないかって思つてるけど…まあいつか。

「はい、最初に歌うのは『福の歌』という三年前に作った曲で、福島の『福』と、幸せの『福』が訪れますようにという二つの意味をこめて作りました。聞いてください」

♪ いつか君がこの町で暮らしたいと言つてくれたら幸せだろう

君の故郷ふるさと（ふるさと）になれるよう

まずは僕が動きだそう…

どうして福島をそんなに好きなの？

と聞かれても困るよ

そう、僕が君の事を

好きでいるように

理由なんてないべ

そんなの要らないべ

「ライブ」って、ほっぺやお腹がビリビリくるくらい音がどーん！って来るんだね。迫力あるなあ。aveさんが言つてただけど、この歌はラブソングなんだって。前から東京のライブイベントで「ままだおる」とか「薄皮まんじゅう」とか福島の名物を配って、「福島に遊びに来てよ！」って県外の人たちにPRしてたみたい。

「みんな聞いてくれてありがとう。次に歌うのは恋色の町という曲なんですけど、えーと、みんな恋してますか？」

だったら僕が唄おう

ラブソングばかりだけど

君に愛を歌うように

この町に愛の歌を…

（福の歌より）

「福島市は県庁所在地なんだからもっと目立たなきゃ。現実離れしてるかもしれないけど、例えば駅を桃の形にするとか。あと、駅を降りたら会津のそばとか喜多方ラーメンとかのグルメを食べることが出来るようにして、『美味しいから本場に行つてみようかな』って思わせるような県内の情報を発信していく町にしたいじゃないかと思うんです」

♪ ねえ僕らが生まれるこの町を

僕らが変えないでどうする

ねえ僕らが生まれたこの町を

僕らが愛さないでどうすんだ

（福島人より）

aveさんって、ホントに福島が好きなんだね。だから愛のある悪口をいうんだろーな。好きな女の子に、ちよつとイジワルするみたいに（笑）。





「えー、みなさんが知ってるような曲をひとつ歌ったほうがいいでしうかねえ。なにがいいですか？」

えー、急に言われても困っちゃうなあ…と思つたら誰かが「あいらぶゆーふくしまー」つて。

♪ I love you baby ふくしま

I need you baby ふくしま

I want you baby 僕らは

ふくしまが大好き!!!

(猪苗代湖) 「I love you &

I need you ふくしま」

ちゃんとした名前は「I love you & I need you ふくしま」っていう猪苗

代湖ズの曲で、テレビでいっぱい流れてたから福島の人には絶対に聞いたことがある曲なんだ。aveさんは苦笑いしてたけど「みんな歌えるの？」つて聞かれて「歌えるー!!!」つて答えたら、ホントに歌ってくれたんだ。そしたら「素晴らしい！ちよつと感動しました」つて言ってもらえるくらいの大合唱。aveさん、リクエストに応じてくれてありがとう！

「えーでは最後、歌詞を元氣の出る言葉に変えた『福の歌』頑張る言葉に『福の歌』を聞いていただいて終わりにしたいと思います。みんなありがとう！」

♪ 誰かのせいにすれば容易いことを自分のせいにして立ち上がり

そんな想いでいることが

争いを失くすんだら

震災後に歌詞を変えた『福の歌』。最初は、「歌っていいのかな？」つてすごく悩んだみたい。だつてほら、震災の後つて、テレビのコーンシャルが流れなくなつたり、いろんなイベントが中止になつたりしたでしょ？そういう自粛ムードの中で歌うのは勇氣があるもんね。でも、誰かの気持ちが楽になつたり、元氣になるんなら…つて決心したんだつて。「福島は危険だと思つた人たちや、避難して福島を離れた人たちにも、いつか戻つて来てほしいつて願いを込めながら歌つてるんです」。

♪ バラバラだった僕らが
「一つになる時が来たんだ」
「頑張つて」

アンコール！アンコール！
アンコール！

aveさんが奥に引つ込んだあと手を叩いて叫んでたら、出てきてくれてこう言つたんだ。「じゃあみんな一緒に歌いましょう。手のひらを太陽に！」

♪ ぼーくらはみんなー

生きてるー

生きてるから歌うんだー

ぼーくらはみんな生きてるー

生きてるから悲しいんだー

手のひらを太陽にー

すがしてみればー

まがに流れる

ぼくのすつ、おー！

みみずだーつて

おけらだつて

あめんぼだーつて

みんなみんなー生きてるんだ

友だちなんだー！

…はー、楽しかった。

aveさんありがとうー!!!

ライブが終わつてから「今日はどうでした？」つて聞いたみてたらaveさん、こんなこと言つてたよ。



ave Acoustic Variety Entertainment
〒960-8057 福島市笹木野字町裏4-8
電話・FAX 024-559-3108
<http://ave-songs.com>

「いやー、子供たちが元氣でホントよかつた。僕の歌でちよつとでも何かを感じてくれたら嬉しいな。あと、福島が大好き！つて言つてくれたのは感動。福島を愛してくれてるなあって(笑)。でも、あれから四ヶ月経つてみんな震災のことを少しずつ忘れるつあるような氣がするから、もっとみんなが手に手を取つてひとつになれるように、福島の地に足をつけて福島のことを歌つて行つつもり。自分が福島を歌つ、いや、歌わなきゃつて思つて。呼んでくれるなら他の小学校にも行きたいな」。

帰り道、太陽に手のひらを重ねてみたよ。指のあいだの光がまぶしかったけど、手のひらから聞こえてきたよ。どつくん、どつくん。ボク、aveさんの歌を聞いて思つたんだ。福島が好きだから、ずっと福島にいたい。どつくん、どつくん。



タカラモノニュースは、お客様の「楽しい、ウレシイ」に役立つ情報提供を目指して、年4回発行しております。ご意見ご要望など、なんでもお気軽にお寄せください。
2011年8月発行



発想から発送までお客様のニーズにお応えします。

タカラ印刷株式会社

〒960-8141 福島県福島市渡利字絵馬平86-9
TEL.024-526-4303 FAX.024-526-4302
E-mail takara@inaka.co.jp <http://www.takara.inaka.co.jp/>



適用範囲:印刷・製本・社会調査